

ヤマト 螢
Hotaru Yamato

私たちが、

女口

業

直

前

まで

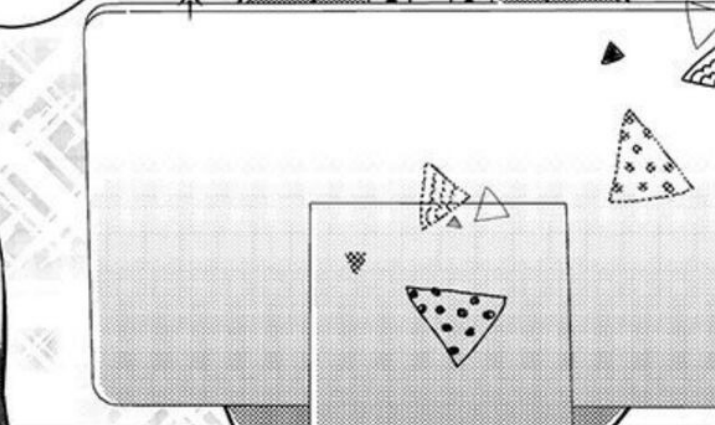
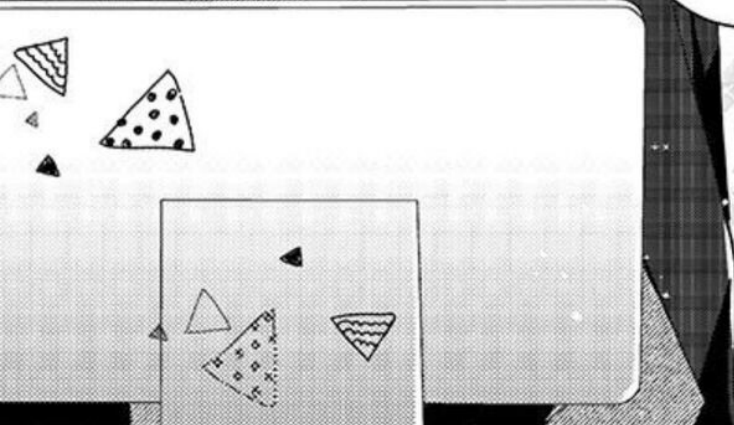
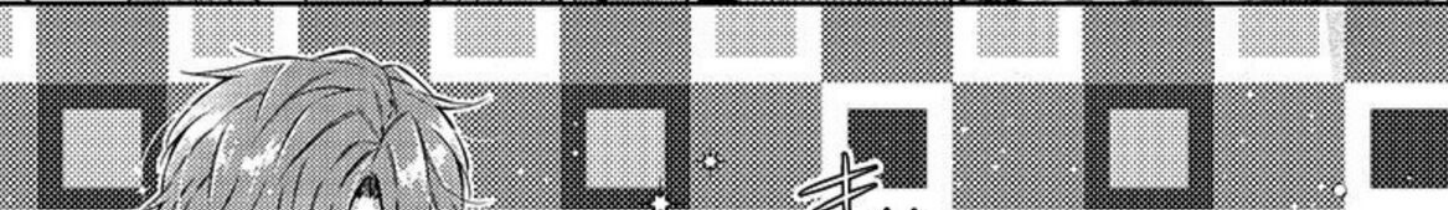
してましました...

年同期は
イジワルで
一途



年下同期はイジワルで一途
～私たち、始業直前まで
Hしてました…

第 1 話





今日は
ずいぶん可愛い
ハンカチだな

真澄

やつやだ
ありがとう

ん？



椿先輩胸もとの
ボタンかけ間違え
ちやつてますよ？

…あれっ



…言えない！

泳ぐの願ひが
おしんや
なつかし
な



…ああ

そうだろ



さっきまで

じいじい



エッチしてた
なんて...っ!!



やったー!!
三徹して必死に
資料作った甲斐
があった!!



ありがとうございます!!



事の発端は
昨日に遡る—

プロジェクト
結果発表
スレセン
1位 春園椿
2位 桐崎真
3位

...ということ

新規プロジェクトの
リーダーは春園さん
で決定です



隣でヘンな顔
しないでくれる?



なによ桐崎くん
同期のあたしに
先越されて
悔しいの？

まさか
血眼になって準備してた
椿ちゃんに今回は譲って
あげただけだよ

俺が軽く抜かしたら
かわいそうじゃん



ただでさえ
椿ちゃん

おもしろい顔
してるのに



椿ちゃんは
年上と思えない
くらい幼いからね
(主に外見が)

年下のくせに
ほんっと
ナマイキ!!

また
始まった

…今会議中
なんですけどね



それが
この男

年下同期の
桐崎真澄だ



あたし
春園椿には

これ以上ない
くらい大きな
目の上の
たんこぶがある

何かにつけて
冷やかしてくるし

イラ
イラ
口を開けば
嫌味ばっかり!

なによりも…

でも真澄先輩って
ルックスも仕事も
本当にピカいち
ですよね♡

何かできる男の
秘訣ってあるん
ですか?

フツ
買いかぶり
すぎ

凡人とは元が
別格なんだよ
オーラ

俺はただ
至極当然のこと
しかしてないよ

負けず嫌い。

確実に能力値が
上などてるが

ほんっつと
ムカツク!!









—で
先に
寝ていいって
言われたけど

イラ
イラ

全然頼りに
されてない
感じがして

その気遣いさえも
気に入らないわ!

末期



キヤミ着てるし
ブラ外しても
大丈夫よね

カタン

…あれ?

そーいえば
桐崎さんと泊まりって
これが初めてかも…

泊まり自体は
何回もあんだけど

2年も一緒に
働いてるのに
なんか意外



ま
どーでもいーや

寝て寝て

…んん…

ん
けっこう
寝ちゃったなあ

今何時だろ…

ぽん



やらかした!!!

ごめんごめん!!
ほんとごめん!!



もはや朝。

時間じゃないか



システムのほうは追加修正しといたから

椿ちゃんの仕事はもうないよ

完全に1人でやらせてしまった...
何も言い返せない



おはよ

ヨダレ出して気持ちよさそうに寝てたから起こせなかったよ

いや起こしなさいよ!!!



他の社員が出社してくるまでまだ時間あるし

そのままスペース使つてなよ
俺も適当に寝るね

えっ



本気で言ってる？

あたりまえよ！

これで2人とも
平等に休める
でしょ！！

桐崎くんが異性
だっていう問題
はあるけど

ゼッ！

こまごま
こまごま
こまごま
お前も
寝ろ！！

あたし基本
そういうの
気にしてないし

彼だってわざわざ
あたし相手に
ヘンな気も起き
ないでしょ……

……
うん

椿ちゃんが
いいなら……
そうさせて
もらおうかな

よし！
じゃー
さつさと
寝よ！

時間もない

そーだね

で

どうなった

わけだけど…



ああれ…?

なんでこんな
緊張してるん
だろう

桐崎くんのこと
なんてどうでも
いいはずなのに…

おっ

落ち着いて椿!
男の子と一緒に
寝たことくらい
あったでしょ!!

ドキ



…椿ちゃんさあ

ちよつと無防備
すぎない？

起きてた

はあ!?

なに言ってる
のよ!!

いくら童顔でも
女性には変わり
ないんだからさ

もっとう覚持たせよ

カキ

やっぱり
腹たづ!!

桐崎くんでも
仕事中は遊ば
ないでしょ!

仕事外なら
何してても

あたしの
知ったことじゃ
ないけど!!



…?
…?



…ちよ

ちよっと!?

なにして…

あのさ

勃ったんだけど

ゴッ

はっ!?
なん...え?

ちよっ...
どっ...
こと!!?

お尻に
当たってる
のって...

ゴッ

~~~~~  
っ!?

...椿ちゃん今  
自分で言ったよね?

仕事外なら俺が  
何しても知った  
ことじゃないって

だったら

始業前の今は

俺の好きにして  
いいって  
ことですよ？

は!?

なによ  
それっ……!

てゆーか  
いい加減  
離し……

ズッ……

やっ  
ちよっと……!

やっ  
ちよっと……!

どっ  
ちよっと……

やっ  
ちよっと……

やっ  
ちよっと……



じゃあこの濡れはなに？

あーっ

ほら

下着ごしでもぬるぬるしてる

あーっ

うそ…あたしっ

桐崎くん相手に感じてるの…!?

ぬる

キーン

ちがう…っ

彼はただの同期で…

いけないのに…っ

あーっ

あーっ

あーっ

だからこんなこと

すぐに

やめさせないと

キーン

あーっ

あーっ





ま  
待って……!

やっ…  
あっ



桐崎くんのが  
太ももに擦れて

アソコに  
当たるっ…



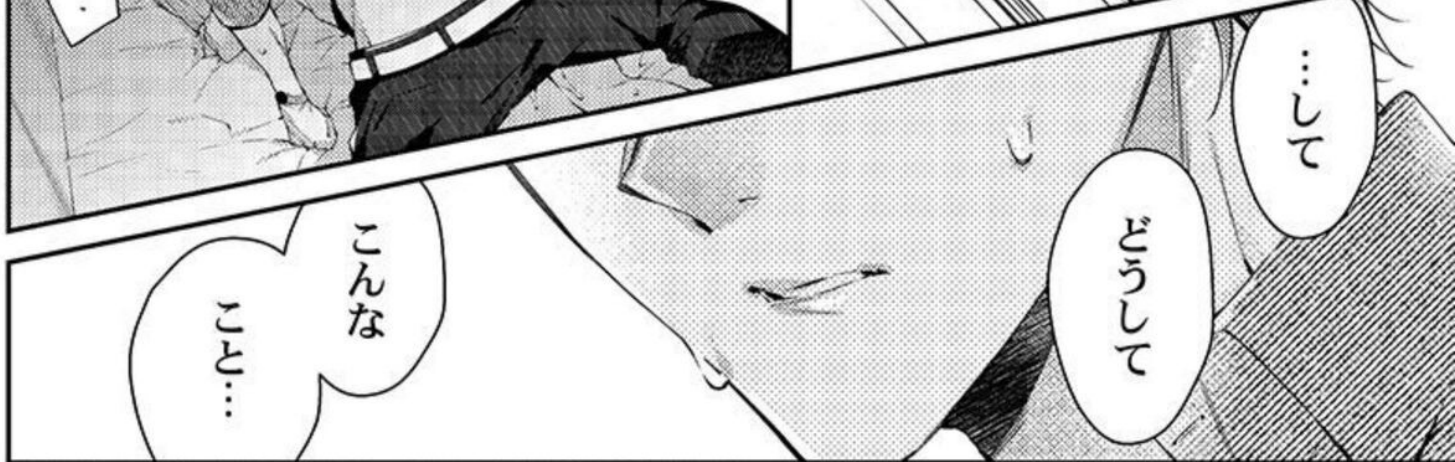
絶対会社で  
しちゃダメなのに



すごく熱い…

桐崎くんのが





年下同期はイジワルで一途  
～私たち、始業直前まで  
Hしてました…(1)

著者 ヤマト蛭  
発行 スクリーモ

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。  
本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、  
ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。